

岡山大学広報



いちよう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE

OKAYAMA
UNIVERSITY

牛窓臨海実験所とタラ オセアン財団の共同研究

瀬戸内海の 環境調査を実施

Vol. 97

2021

CONTENTS

高校eスポーツ部の活動を支える「チームドクター」
性のあり方“セクシュアリティ”について知る・考える

岡山大学の研究誌 脳神経内科学 山下 徹

広い世界で活躍する岡山大学の学生たち

OU NAVI



対戦型ゲームに「スポーツ」として取り組み、その腕前を競う「eスポーツ」が、全国の高校で部活動として本格的に採用され始めている。昨年4月、「eスポーツ」の強豪校、岡山県共生高等学校eスポーツ部の「チームドクター」として委嘱を受けた神田秀幸教授にチームドクターの存在意義とその想いを尋ねた。

高校eスポーツ部の活動を支える「チームドクター」

依存症予防の専門家として生徒たちの健やかなフィジカル&メンタルをサポート。



神田 秀幸

■専門分野 / 公衆衛生学

昭和47年生まれ。島根県出身。島根医科大学医学部卒。国立公衆衛生院専門課程(MPH)、滋賀医科大学大学院博士課程(博士(医学))修了。福島県立医科大学・横浜市立大学・島根大学を経て令和元年より現職。平成25年10月 第23回日本公衆衛生学会奨励賞

大学院医歯薬学総合研究科(医)教授

神田 秀幸

KANDA Hideyuki

対戦型コンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」。「eスポーツ」という言葉自体は2000年頃から広がり始め、高い瞬発力や判断力が求められる「スポーツ」として海外では早くから地位が確立、世界の競技人口は1億人以上と推定され、野球よりも多いと言われている。現在、日本でも高校の「部活動」として本格的に採用され始め、全国規模の大会が行われるまでになった。そんな「eスポーツ」の強豪校が新見市にある岡山県共生高等学校。2020年4月には、大学院医歯薬学総合研究科の神田秀幸教授が同校から、「国内初のeスポーツ部チームドクター」として委嘱を受けた。

もともと神田教授は、長年にわたって酒やタバコ、ギャンブルやインターネットなど、依存症の研究に取り組んでおり、厚生労働省の研究事業メンバーを務めるなど、国内でも屈指の「依存症研究の専門家」のひとり。今回、「eスポーツドクター」として同校をサポートするに至った経緯を神田教授はこう説明する。「2019年8月、岡山大学に着任して、この岡山の地で私が取り組んできた『予防医学』の知識やノウハウが『eスポーツ』に活かせないものか？と考えていました。そんな時、岡山共生高校のeスポーツ部のことを知り、高校へ自らアプローチしました。学校側もゲーム依存症による子供たちの健康被害を防ぎたいという思いがあり、後藤浩校長から『医師の立場でアドバイスしてほしい』



Student Voice

かわしま ゆい
河島優衣さん ■岡山共生高校2年

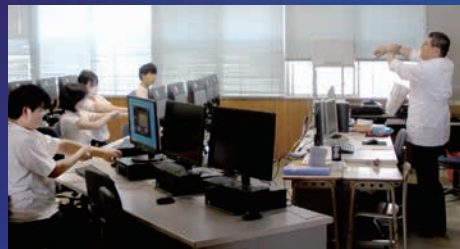
eスポーツの魅力は、先輩後輩・男女の垣根が低いので、楽しく教え合いができ、コロナ禍ですが、部活もできるし、家にも練習や試合ができることです。神田先生が着任する前は、目や指など身体の不調はプレイをやめるしかなかったけれど、今は神田先生が「続けるためにアドバイスをくれる」ので安心感が違います。神田先生は部員にとっては「寒い夜の毛布のような存在」です。進路のことや家庭のことも相談させてもらっています。



Student Voice

やま さき たい せい
山崎大生さん ■岡山共生高校1年

僕は1年生なので、入学と同時にお世話になっています。プレイ後や夜に腕が痛くなるが多かったので、神田先生からはケア方法を学びました。その結果、腕は1〜2週間で改善しました。それまでが酷かったので、結構すぐに楽になった印象です。神田先生の存在は、チームに強力なメイジやヒーラー(回復役)がいるようで、他校にはない強みだと思います。神田先生と一緒に全国優勝を目指したいです。



と依頼されました」。具体的な活動としては、定期的(原則月1回)に同校を訪問して生徒たちから健康面についての聞き取り、指導を行っている。

る。チームドクターの存在は重要で、くしくも新型コロナウイルス禍で休校措置がとられた昨年の5・6月、寮生活だった部員のひとりには「休校期間は実家に帰り、昼夜逆転になって遅くまでゲームをしていた。食事もありとらずにいた」とのこと。こうしたことから、もともと生徒たちの体格改善の必要性、体力のなさを感じていた神田教授は、生徒たちの部活日誌に「朝食を食べたかどうか」を書くチェック欄を設け、毎日書くように指導した。結果、寮の管理人からは「生徒たちが朝食をしかり食べるようになった」と喜びの報告が届いたそうだ。

「日々真摯な姿勢で練習に取り組み生徒たちの姿を見ていると一般で言う『ゲームオタク』なんかじゃない。『アスリート』そのものです。あいさつも掃除も規律もきちんとしています。勝ちに喜び、負けて泣く。スポーツとしての『eスポーツ』に生徒たちが安心して取り組めるようメディアカルの見地から生徒たちに寄り添います」と想いを語る神田教授。ちなみにゲームの盛んな北米では、「eスポーツ」を教育に取り入れる試みも登場している。ただ「eスポーツ」はまだ歴史が浅く、どんなゲームが依存症になりやすいか、1日何時間までの練習なら健康に悪影響がないかといった研究成果が不足しているのが現状。「投手に投球制限を設けた高校野球を参考に、研究を重ねつつ、横のつながりを通じて健康に関するガイドラインを作りたい」と神田教授。生徒たちを包み込むような穏やかな笑顔が印象的だった。



学校法人 天真学園 岡山県共生高等学校 eスポーツ部 Okayamaken Kyousei High School

2018年秋に創部。現在の部員は男女20人で、1年生16人の大半は同部での活動を望んでの入学。「ゲーム好きからeスポーツアスリートへ」の想いを胸に、第1回全国高校eスポーツ選手権大会では準優勝に輝いた全国有数の強豪校だ。

